令和３年度　松本市教育文化センター運営委員会　会議録

１　日時

令和３年１０月２９日(金)　午後３時３０分から午後５時

２　場所

教育文化センター１階　講義室

３　出席者

⑴　伊佐治教育長

⑵　委員　　藤松委員、北野委員、松田委員、三澤委員、百瀬（英）委員、小幡委員、澤柿委員、木下委員

⑶　事務局　加藤所長、一ノ瀬館長、倉田課長補佐、小林指導主事、上條指導主事、望月主任

４　内容

⑴　開会

⑵　教育長あいさつ

⑶　委員等紹介

⑷　会長選出及び職務代理者の指名

会長　　澤柿　教淳　氏（松本大学教育学部学校教育学科　教授）

職務代理者　松田　真理　氏（教育文化センター専門委員会代表　松本市立芳川小学校長）

⑸　会議事項

ア　教育文化センターの概要

施設の概要、職員数、建物内各フロアの内容を説明

イ　令和２年度決算及び令和３年度主要事業について

(ｱ)　令和２年度決算

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、施設利用者や利用料等が減少したことを説明

【質問や意見等】

決算の歳入と歳出の額や規模も大きく違うがこのとおりでよいのか。

⇒　料金収入等は市の会計に歳入として入れ、必要な経費の不足分は税金で賄っている。

(ｲ)　令和３年度の主要事業

グランドデザインを説明後、各担当者から事業内容や特に注力している点を説明

ａ　一般市民（教職員を含む）を対象とした各種講座

理科学習、プログラミング学習、クラブ活動、宇宙・天文関連事業、パソコン教室

ｂ　教文学習

新学習指導要領完全実施に伴った課題を見据えた学校のニーズを捉えられているか市の予算でバス代を負担することに見合った学びとなっているか、内容を精査してきた。

小学校は教科横断的なSTEAMの概念を取り入れて実施。中学校は特別活動および総合的な学習の時間に位置付けている学校が多いことを踏まえて内容検討。

c　プラネタリウム事業

通常投映、特別投映、番組作成について説明。市民やプロの演奏家と連携しながらプラネタリウムの新たな活用方法を検討。教員を目指す松本大学の学生に教員向けの投映を実施。

d　その他

広報活動、企業及び大学との連携事業、宇宙関連事業、講演会について説明

【質問や意見等】

・　宇宙関連授業について、国立天文台との連携はぜひ継続していただきたい。
・　講演会は長野県出身もしくは長野県内で天文分野に関わる人に講演をいただきたい。
・　本館のプラネタリウムは市民が関われることが特色だと感じている。その点について補足説明をお願いしたい。

⇒　番組制作講座を年３回実施。教職員の参加もあり、授業で活用するため研修としての側面もあった。宇宙クラブでも子どもたちが番組制作を行い、発表の機会を設ける。このような活動のためにもパソコン等の機器の配備は必要である。

・　小さいころから科学にふれ、興味を持ち学んでいける素晴らしい施設である。より発展させ、松本から、山辺からより良い学びを発信していければと感じる。
・　里山辺公民館での勤務のため、日頃から指導主事が子どもたちのより良い学びに向けて努力をしている姿をよく目にしている。
・　将来を担う子どもと、その子を育てる親が少しでも科学に興味を持てるような、事業を追求することが日本の科学を支えていくために必要と考えている。
・　当初の改修計画の見直し理由で宇宙に特化し過ぎているとあったが、山辺でなければできないことであり、特に最近マスコミ等でも多く取り上げられる天文分野に関する事業を行うべきだと考える。身近にあるけど手が届かない宇宙について、子どもたちが興味を持って学んでほしい。

ウ　教育文化センター改修事業について

経過や見直しの理由等について説明

【質問や意見等】

・　学びをどのように位置付けるか、そして科学的な意義を追求することは、単なる体験に留まらない。皆さんが大変一生懸命取り組まれていると感じる。
・　ボランティアを含め、市民の方々が活躍できる場を設けることが重要。特に親子世代にもっとこの館を大事に考えていただけるようにするべき。
・　提供している情報がきちんと市民に伝わっていない。マスコミを活用して事業の楽しそうな様子を発信する等、市民をもっと巻き込める方法を検討願う。そうすれば当館の大切さが伝わり、「未来を創造する力」を育むことの意義が広く伝わるのではないか。

⇒　今年度もマスコミ等にアピールをしているが、今まで以上に行いたい。

・　教育長の挨拶から、市長が科学館（施設の改修）を否定しているわけではないと聞き安心した。新聞記事をみても施設の今後があやふやで、わからない。
・　市内には科学に関する施設は四賀化石館、山と自然の博物館、そして本館しかない。何に特化するべきか考える時に、まずは山辺の地域特性を活用すること。
・　体験から子どもたちが科学や自然現象の面白さに気づくことが大切。天文学は物理学や

数学等、様々な分野が総合的に組み合わせで成り立っている。元素の周期表をみると、各元素が天文現象によって生まれたことから、宇宙の歴史そのものだと感じる。

・　館の整備について、再度見直すことは良いが、どの分野に焦点を絞るのか、自然科学について取り扱う館としてどんな内容とするのか、再度検討する価値はある。

・　ＩＣＴ機器の配備は重要。お年寄りを対象としたスマホやインターネットの講座をやることも可能。また、プログラミング教育はもっと充実させて良いと感じる。

・　全国では多くの科学館で教職員研修を行っている。その点でも中核市になった松本市に科学館は絶対必要。以前は幼稚園や保育園の先生がＰＣに使い方を研修して欲しいと来たこともある。ＩＣＴ整備等をぜひ進めていただきたい。

・　学校の立場からすると、教文学習が刺激をもらえる非常に貴重な一日になっていると感じる。学校ではあまり見せない積極的で一生懸命な表情を見せる子もいる。

・　市がバス代を負担して教文学習を行っていることは、この館がどのような方向で生まれ変わるとしても、子どもたちが必ずここに来て学べるということをセットで考えてもらえるよう要望したい。

・　教文学習があるため、松本の子どもたちは一生のうちに２回プラネタリウムを見られ、科学体験もできる。これは学びの機会の保証である。国民生活基礎調査（厚生労働省）では貧困率（年収が 127 円にみたない家庭）が 13.5%とされている。学校に置き換えると 35 人学級には 4 人から 5 人はそのような子がいることになる。他の都市に住んでいるそのような子どもたちは一生プラネタリウムを観ないかもしれない。しかし松本市はどのような家庭であっても、プラネタリウムを 2 回見られる、まさに学びの機会の保証である。

　子どもの権利と含めて考えても素晴らしいこと。時間の確保や財政等の課題はあるが、そういったことを乗り越えて、教文センターで一日学習をすることはとても意義がある。

・　教文学習では学校で出来ない体験ができている。子どもたちの学習カードを見ると、楽しかった、また来たい、またやりたいなどの感想があり、「学ぶっておもしろい」を実現している。当館が学びの楽しさに出会う一端になっており、今の教文学習をブラッシュアップして継続して欲しい。

・　科学館をつくることを市長は否定しているのか

　⇒　　市長は科学館という名称については検討するべきとしている。また、交通の便が良いとは言えない当館に人が集まるのかと懸念している。

　これまでも教文学習も実施してきましたし、今後も子ども若者の人材育成を行っていきたいと考えている。そこに教職員研修が加われば、子どもへと反映されて学びのシンカになる。この方向性で進めていきたい。

　その他のご意見についても、情報発信が不十分であるとは感じている。令和元年にプラネタリウムを更新し、全国的にみても高性能のものが配備された。もっと多くの方に観ていただけるようにしたい。

　いただいた貴重なご意見の中で明日からでも取り組めるところは取組み、良い事業は残していく。

⑹　閉会